

# 2019年 第一回 世界ウエルネスルール麻将大会

## <22日(火)一日目> 出発日

朝ひどい雨。日本から選手8名、運営関係者、応援団含め19名が成田空港に集合。現地で数名合流。飛行機に乗り、シートベルトをしようとするも何度見てもベルトの片側がなく慌てる🤪💧更に治りかけていた風邪をぶり返したのか、機内5時間のフライト中一度もトイレに行く事なく、ぐったり😓

ホテルへ到着後、大会の行われる会場へ練習しに行くと、既に各国の方々が練習していた。その一席に入れてもらい同卓すると、驚く事に鳴きながら4面子1雀頭を揃えるだけで、役なしで次々とあがるではないか😱！これでは役を作る、こちらの方が圧倒的に不利(-\_-;)果たして大会になるのだろうか…(-\_-;)と一抹の不安を抱えつつ、夕食の会場へ。

次々と運ばれてくる四川料理はことごとく辛く悶絶🤪汗が止まらない。辛さによるものか、風邪の熱なのか、もはやわからなくなっていたが、これが功を奏したのか、翌日朝には熱はひいて、ひと安心(^\_^;

### ※ 写真は会場の様子と実際使用した麻雀卓と牌

中国の麻雀牌はとにかく大きい。卓もそれなりに大きいがそれでも麻雀牌は更に大きく、卓からはみ出しそうな勢い(笑)。何故大きいか考えると、恐らく不正防止の理由があるのではないかと、という私なりの結論に辿り着いた。この大きさと重さではとてもすり替えなどは難しい。なお、卓は自動卓で牌の重さに耐えられれるよう頑丈に作られている様子。卓にキャスターが付いているのは移動しやすく良いアイデア。日本の麻雀卓にも取り入れて欲しいと感じた。



## <23日(水)二日目> 大会初日

大会は昨日の状況を踏まえ、しっかり打てる日本チームと中国チームの対抗戦へ急遽内容を変更し、アメリカ、フランスチームは別卓での対局となった。

開会式の後、いよいよ対局開始だが、まず開会式が始まらない。始まって、用意されていた翻訳機が使用出来ず、毎回英語、中国語、日本語に通訳することになり、今度は開会式が終わらない(笑)。しかし終わらない開会式はない、来賓も多いしここは中国だから、よくある事だろう、と私は割り切り大人しく聞いていた。

ようやく開会式も終わり、いよいよ対局開始。

この日は四川ルールで4回戦。四川ルールは国際ルールに近く、リーチやドラ、フリテン、親子といった概念が一切ない😞。それ楽しいのか？😞と思われるかもしれないが、これが意外と面白い😁。特に面白いのは和了した順に局から抜け3人があがるまで1局を続けられるサドンデスルール。ツモれば全員から相当の点数を得られる為、ロンより、早くツモれば高得点につながるが、最後まで和了出来ないと逆に大きく失点する可能性がある。多面待ちでテンパイ出来れば、ロン逃しの戦略もなくはないが、私は初めから高得点を意識せず、1000点でもいいから、早い和了を目指し、失点を最小限に防ぐ戦略で望む事にしていた。これが見事に嵌まった。

1回戦目の最終局、競っている点数状況、見事にバラバラな配牌だったが、強引とも言える鳴きを敢行し、カン⑧ピンで純チャンをテンパイ。それまでことごとく両面でこつもれなかったテンパイだったが、最終局で3人に先がけ⑧ピンをツモあがり、大きなトップを取れた。この時、今大会はイケる！と確信した。

2回戦目に一つ痛恨のミスをするも、この日の順位は1-2-2-1位で、暫定首位の感触を残し大会初日終了。夕食後は地元の屋台で、楽しい夜を過ごせた。



※ 写真は点数のやり取り風景と晩餐会

中国にはまだ点棒という概念がない。大衆娯楽として遊技する際のやり取りは現金が常であったからだ。点棒が無いので、トランプで点数をやり取り。ややこしいが、何でもやれば出来る、決してマージャンとトランプを同時に楽しんでいるのではない(笑)。

<24日(木) 三日目> 大会2日目

この日は日本ルールで4回戦

実は四川ルールの方が勝てる感触があり、日本ルールの方が勝つのは難しいと感じていた。日本ルールの方が運の要素による部分が大きいと感じていたからだ。他の日本チームの面々は四川ルールでは苦戦した様子だったが、この日は日本ルールなのでチームとしては勿論日本有利。中国人にはフリテンや守りの意識は難しいだろうと若干侮っていたが、予想以上に日本ルールに順応していて、少し驚いた。

迎えた1回戦目、3着で迎えた最終局、親番。トップを狙うには恐らく跳満ツモが必要な状況で、最後に面白い形で手が進んだ。北家、西家からリーチが入った場面 (ドラ④ピン)



タンヤオ、三色同刻、四暗刻のイーシャンテン!!

六を引いたら③を切るか、七を切るかを考えていたが、ここに引いたのは⑤ピンだった。マンズはいずれもリーチ者に通りそう。

七を切れば三暗刻、三色同刻まで狙え、更に四暗刻への手変わりも狙えるが、ツモり易さと一発や裏ドラ期待でそれらの役を全て捨て、六切りリーチ!

残念ながらツモは叶わず4着目からの出アガリ、満貫止まりで3着終了。

他の卓では開始早々、中国チームの方が、何と大四喜を栄和して大盛りあがりとなっていた。やはりそう簡単には上手くいかない。

しかし、続く2回戦、3回戦はいずれもトップを取れ、次もトップなら、恐らく2位以下に大差をつけて個人優勝出来る状況で迎えた最終戦。

ポイントとなったのは、東2局、ドラ5ソー、私が西家の場面だった。同じ日本チーム対面で親番の津野さんが、発を鳴き、数巡後、西を手出した8巡目で、マンズの混一色、満貫以上のテンパイの様子。生牌の中は簡単に切れない。中とマンズをpushしながら回し打ち、12巡目ようやくテンパイにこぎつけた。



中はかなり危険だったが、通りそうな予感と、ここが勝負所と思い、中を切ってリーチ！

ポン！

鳴いたのは中国チーム南家だった。

三人が突っ張り合う展開となったが、ドラ5ソーを私がロンアガリし、裏ドラが二萬で跳満。この時勝利を確信した。その後もアガリを重ね、最終戦もトップを取り、有終の美を飾る事が出来た。2位には同じく日本チームの山田昌和さんが入賞し、団体戦としては日本チームが見事優勝。



今回の事を思い起こすと、声はガラガラ、発熱はする、ホテルでは浴槽から水が漏れ洗面台一面が水浸しになり、部屋のカードキーや持参したシェーバーも壊れ、不運という程の事ではないが、些細なトラブルが立て続けにおこったが、そのおかげで大会では運気が上昇し、優勝出来たのかもしれない、と感じた。勿論しっかりと打てたという自負はあるが（笑）。運気というのは長い目で見れば、ちゃんとバランスが取れるものかもしれない、と改めて思った。悪い事もあれば、良い事も必ずある、そういうものだ。



大会全体のバタバタ感は否めなかったが、これだけの規模の大会を企画実行する労力は計り知れない。普段同じ運営側に立つ者として、運営に関わった方々の苦労は察するに難くなかった。個人的にはむしろ、次から次へと起こる問題に対して臨機応変な対応に感心させられる事が多く参考になる事が多かった。

第一回ウェルネスマージャン世界大会での優勝という栄誉と勲章を得られたのは良かったが、それ以上に普段接する事のない他会場の方々や関係者、海外の方々と交流を持てた事、この様な大会を肌で感じる事が出来た事は何よりの収穫となり、素晴らしい体験となった。

来年は個人的にも思い出深いロサンゼルスでの開催予定との事。行けるかはわからないが楽しみの一つになった。選手でなくても観光を兼ねた応援団として、当クラブの会員様にも是非来年は予定が合う方には参加してもらえればと思う。



今回声をかけてくれ、乗り気でない私の背中を押してくれた田嶋理事長、引率から大会進行まで奮闘されていた事務局の戸構さんや現地の運営の方々、各国の選手の方々、日本から応援に来てくれたの方々、その間東久留米会場を運営してくれたスタッフ、関わった関係者全ての方々に感謝したい。

2019. 10. 26 佐川 正高

※個人で撮った写真がいまひとつなので、関連ニュースや来月以降の麻雀界の冊子などもご覧頂ければ幸いです。

<https://jan39.com/news/14249/>